

減量に伴う骨量変化に影響を与える因子とは？

中田由夫，藪下典子，田中喜代次

(筑波大学人間総合科学研究科)

【目的】本研究は，減量に伴う骨量変化に影響を与える因子の検討を目的とした。【方法】対象者は3ヵ月間の減量教室に参加し，減量前後の測定を受けた24歳～66歳の肥満または肥満傾向女性201名であった。骨量測定には二重エネルギーX線吸収法を用い，骨密度 (bone mineral density: BMD) または骨塩量 (bone mineral content: BMC) の減量に伴う変化率を説明する因子を，重回帰分析によって検討した。説明変数は，減量前の年齢，身長，体重，body mass index (BMI)，減量前後の体重変化率とした。【結果と考察】分析の結果，BMD 変化率の有意な説明変数となり得たのは減量前の体重のみであり，体重の軽い者ほど BMD を低下させやすいことが示された ($R = 0.25$)。一方，BMC 変化率の説明変数として採択されたのは，減量前の BMI と減量前後の体重変化率であった ($R = 0.45$)。すなわち，BMI の低い軽度肥満者が大幅に体重を減少させた場合に，BMC が低下しやすいことが示された。一方，BMD，BMC とともに重回帰分析による説明率は高くなかったことから，その他に影響を与えている因子の存在が示唆された。